

危険すぎる老朽原発

若狭の老朽原発・高浜1、2号機、
美浜3号機再稼働の問題点

若狭の原発を考える会
木原壯林

1. 原発は、なぜ危険なのか？
原発は、どんなに危険なのか？
原発は、なぜ現在科学で制御できないのか？
2. 原発が老朽化するとさらに危険
—その理由と事故例—
3. 若狭の原発はとくに危険
4. どうすれば原発をなくせるか？

原発は、
何故危険なのか？
どんなに危険なのか？
なぜ現在科学で制御できないのか？

核反応エネルギーは 化学反応エネルギーの数100万倍

	人類が生存 している環境	原発内の環境
反応	化学反応	核反応
放出・吸収 エネルギー	eV	MeV 〈M(ミリオン)=100万〉
達成温度	数1000℃	数億℃

eV (エレクトロンボルト) : エネルギーの大きさを表す単位

1核反応によって100万もの
化学結合が切断

核反応は、化学反応によって
簡単には制御できない

生体内化学結合は
0.1 eV 以下のエネルギー
(100°Cを越えて生きる生物は稀)

→ 体内に取り込まれた放射性物質から
1回放射線がでれば1,000万もの体内の
化学結合が切断される (内部被曝)

原発事故の深刻さ

核反応エネルギーは膨大

⇒ 原発事故は瞬時に重大事態に

瞬時に進行する事故への対応は至難

原発重大事故は、 原爆とは比較にならない量の 放射性物質（死の灰）を放出

100万 kW の原子炉を1年運転したときの生成放射性物質量は約 1 t で、広島原爆がらばまいた放射性物質の量750 g の約1300倍

火災が10 km 先に飛火することはない 原発重大事故の被害は 広域におよぶ

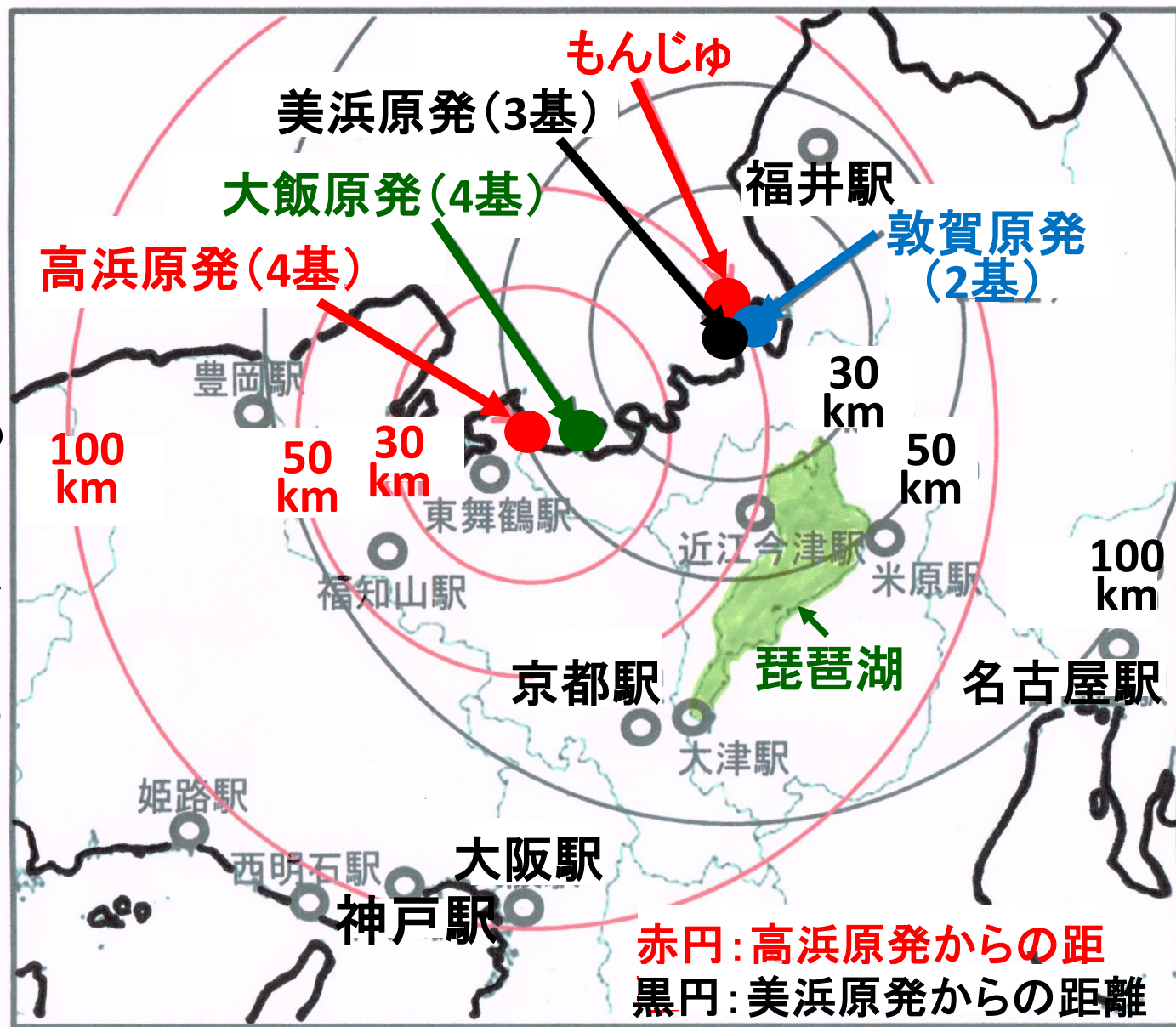
放出された放射性物質は、事故炉近辺を汚染させるだけでなく、風によって運ばれ、雨によって降下するから、汚染地域は極めて広範囲に広がる。

福島原発事故では、

- 160 km沖合にいた米空母「ドナルド・レーガン」も深刻な被曝
- 約50 km 離れた飯舘村も全村避難
- 約200 km 離れた東京や千葉にも高濃度の放射性物質が降下
- 流出した放射性物質は海流に乗って広範囲の海域を汚染

若狭の原発で重大事故が起これば、関西はもとより、中部、関東も高濃度放射性物質で汚染される可能性がある

例えば、京都駅、大津駅は高浜原発から60数km、大阪駅は80数km。250万人が住む京都府、140万人が住む滋賀県は100 km内にあり、全域汚染の可能性はある。避難は不可能。琵琶湖の汚染は、1450万人の飲用水を奪う。汚染水は日本海にたれ流されるが、日本海は太平洋に比べて比較にならないほど狭い閉鎖海域であるから、極めて高濃度に汚染される。



放射性物質による被害は 長期におよぶ

火事は長くても数十日で消火できるが、
放射性物質は、
半減期に従って安定物質（核種）に変わるまで
放射線と熱を発生し続ける

例えば、半減期約24,000年のプルトニウム239を
1/10000に減少させるには約32万年かかる

原発は、長期保管を要し、 行き場のない使用済核燃料、 放射性廃棄物を残す

原発を運転すると、核燃料の中に運転に不都合な各種の核分裂生成物が生成する。

したがって、核燃料を永久に使用することは出来ず、一定期間燃焼させると新燃料と交換せざるを得なくなり、使用済み核燃料がたまる。

日本には使用済み核燃料が17,000 トン以上たまり、原発の燃料プールや六ヶ所村の再処理工場の保管場所を合計した貯蔵容量の73%が埋まっている。

使用済み核燃料を消滅させる方法はない。

永久長蔵はおろか中間貯蔵を引く請けるところもない。

一方、日本には、低レベルおよび高レベル放射性廃棄物が200リットルドラム缶にしてそれぞれ約120万本および約1万本蓄積されているが、その処分は困難で、永久貯蔵を引き受ける所もない。ドラム缶の腐食も進んでいる。



数万年を超える保管を要する
使用済み核燃料、放射性廃棄物の
蓄積の面からも、
原発は早期に
全廃しなければならない。

関電は使用済み核燃料の中間貯蔵候補地も 探せないまま、老朽原発再稼働を画策

関電は、2017年11月、「2018年末までに、使用済み核燃料の中間貯蔵候補地を福井県外に探す」と明言していました。西川前福井県知事が、大飯原発の再稼働に同意したのは、この約束を前提としていました。

しかし、関電は、この約束を反古にし、候補地提示期限を「2020年末まで」と再約束して、原発の運転を継続し、使用済み核燃料を増やし続けました。

さらに関電は、再約束もまた反古にし、去る2月12日、候補地提示期限を「2023年末まで」と先送りし、「この期限が守られなければ老朽原発・高浜1、2号機、美浜3号機を停止する」として、福井県に老朽原発再稼働への同意を求めました。

これを受けて、杉本福井県知事は、それまでの「中間貯蔵地を示すことが再稼働議論の前提」とした発言を一転させ、県議会に再稼働に向けた議論を促しました。

なお、関電が「2023年末を期限」とした拠り所は、青森県むつ市の中間貯蔵施設の共同利用の可能性ですが、宮下むつ市長は、これを否定し、猛反発しています。

関電は、二度までも、何の成算も無く「空約束」をし、平気でそれを反古にした、倫理のかけらも持ち合わせない企業です。三度目の「空約束」が反古にされる可能性は極めて高いでしょう。こんな関電に原発を安全に運転できるはずがありません。

それでも、杉本知事は、老朽原発再稼働へと変節したのです。県民の安全より経済を優先させようとする背信行為です。

原発が老朽化すると
さらに危険

老朽原発：40年を超えた原発

原子力規制委員会（規制委）は、当初、
「40年超え運転は例外中の例外」としていた

高浜原発1号機：1974年11月運転開始（46年超え）

高浜原発2号機：1975年11月運転開始（45年超え）

美浜原発3号機：1976年3月運転開始（45年超え）

東海第2原発1号機：1978年11月運転開始（42年超え）

（1960年代には原発運転は20年と説明されていた）

規制委は、2016年以降に

全ての老朽原発の40年超え運転を認可

原発は、老朽化すると、 重大事故の確率が急増する

- 高温、高圧下で高放射線（とくに中性子）に長年さらされた圧力容器、配管等の脆化（ぜいか）、腐食、減肉（げんにく）。
交換することが出来ない圧力容器の脆化は深刻。
- 建設時には適当とされたが、現在の基準では不適当と考えられる部分は多数あるが、全てが見直され、改善されているとは言えない。例えば、地震の大きさを過小評価していた時代に作られた構造物、配管の中で交換不可能なもの（圧力容器など）。
- 建設当時の記録が散逸している可能性があり、メンテナンスに支障となる。
- 建設当時を知る技術者は殆どいないので、非常時の対応に困難を生じる。

老朽化に伴う
脆化、腐食、減肉

金属脆化

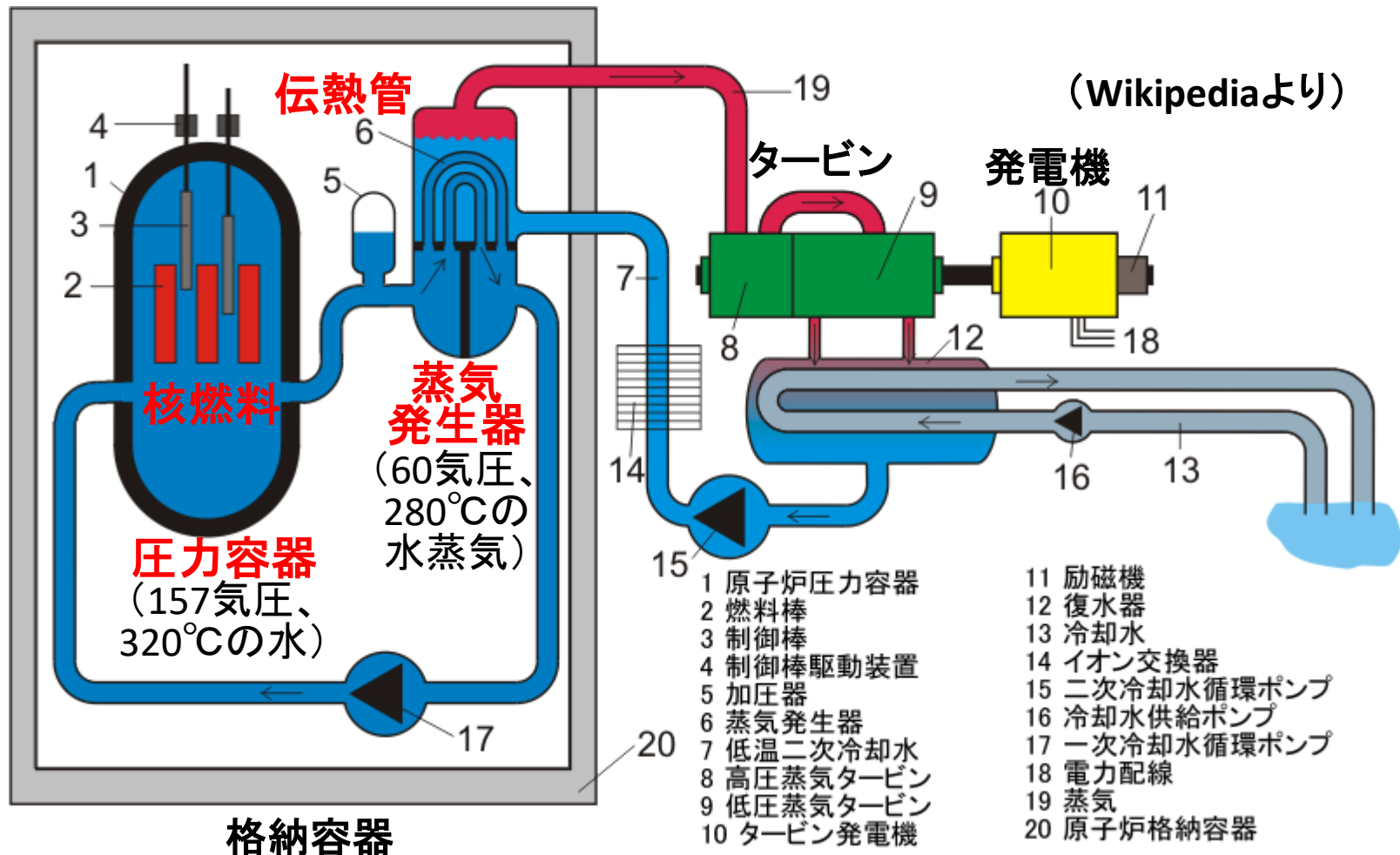
脆化（ぜいか）

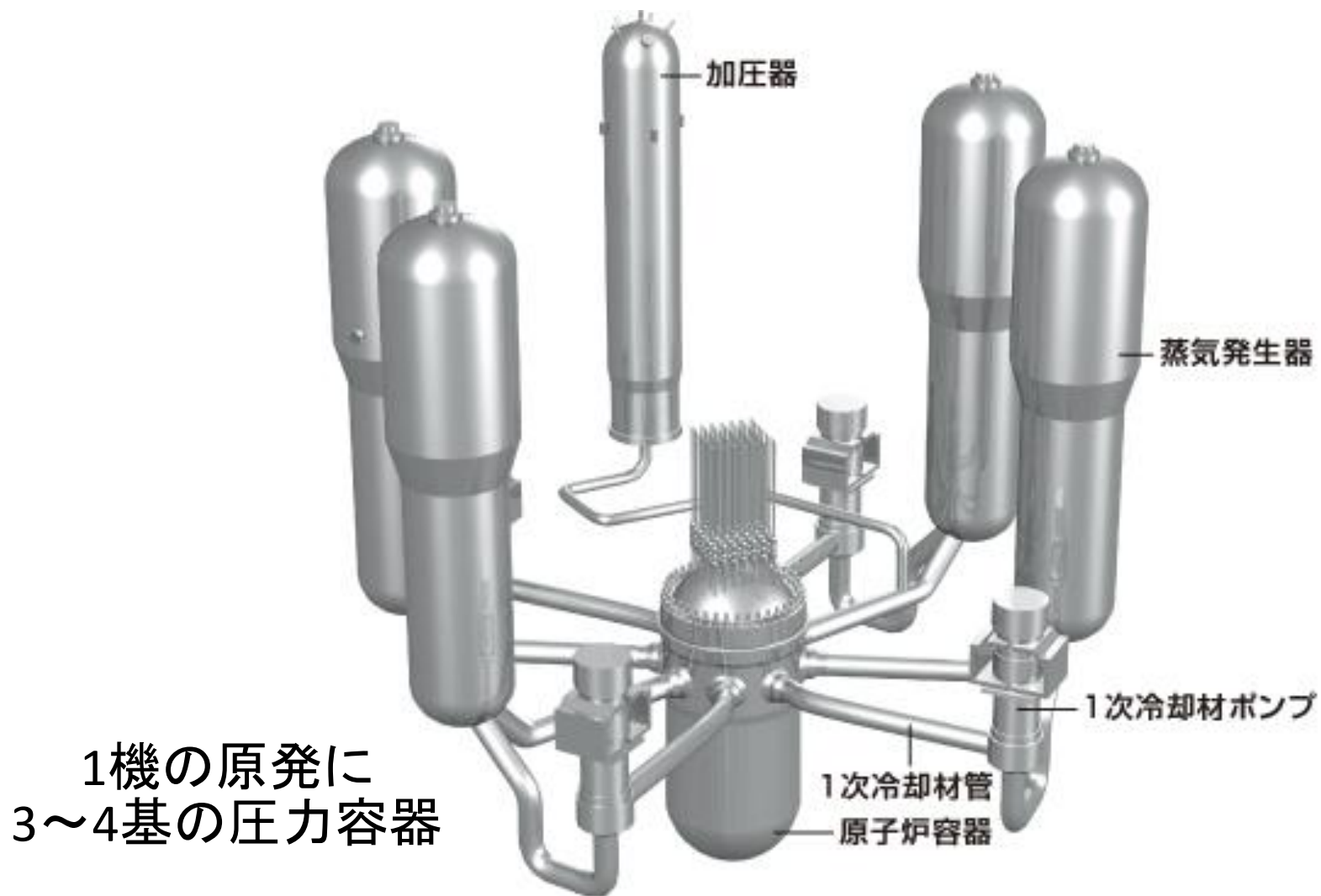
柔軟性があった材料が固く、もろくなること

原発の仕組み

加圧水型原発 (PWR)

(敦賀1号機以外の若狭の原発)



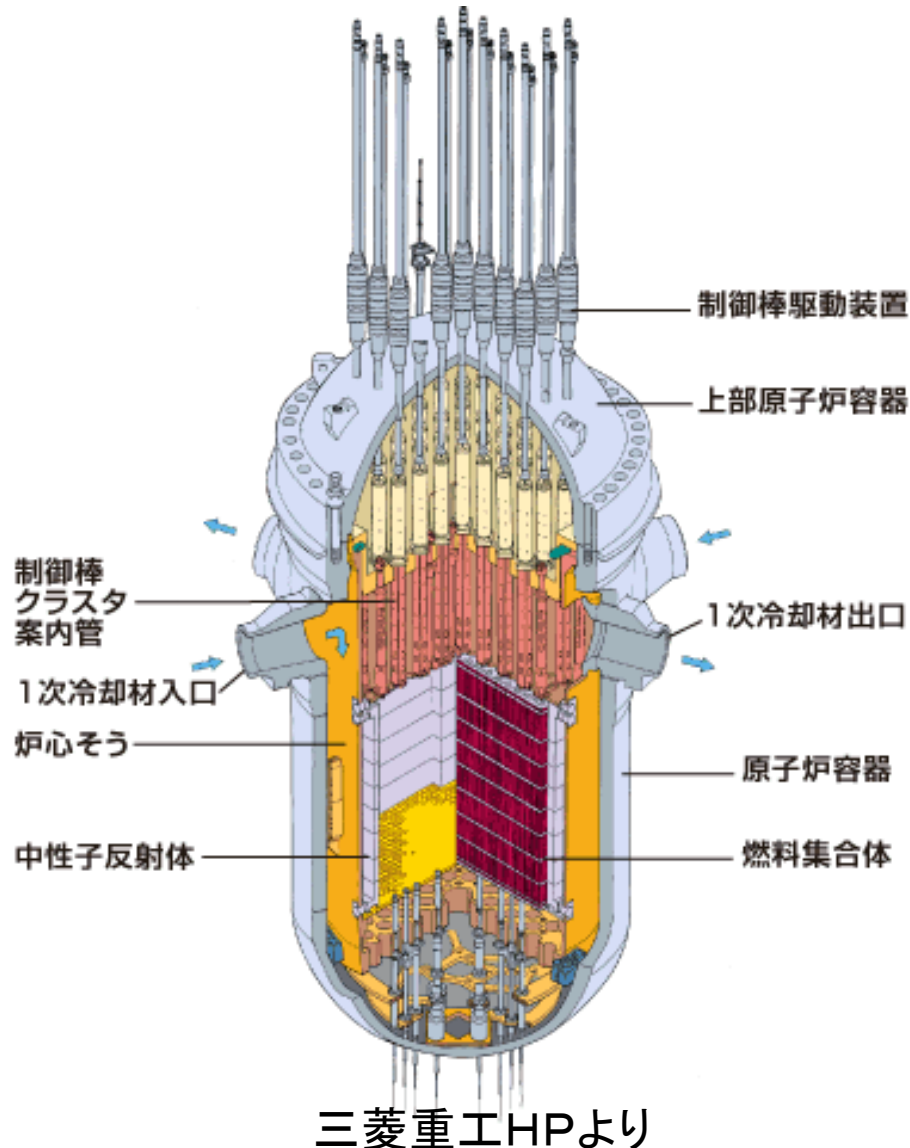


圧力容器と 蒸気発生器の配置

三菱重工HPより

圧力容器

(157気圧、320°Cの水)



圧力容器の例

高さ:12.9 m 厚さ:216 mm

内径:4.4 m 重量:410 t

最高使用圧力:17 MPa(約170気圧)

最高使用温度:343°C

材質:低合金鋼(鉄合金で合金成分C,Mn,Cr,Ni,Mo,V,Siの含量が10%未満のもの:耐腐食性、高強度)

圧力容器の脆化

圧力容器は、**鋼鉄**でできていて、
運転中は、157気圧、320℃の
環境下で中性子などの
放射線に曝されている。

〔注〕 加圧水型PWRの場合

圧力容器材料（鋼鉄）の性質は？

一定温度（脆性遷移温度、脆化温度）

以上では、軟らかさを持つが、
温度が下がると、ガラスのように硬く、
脆くなる（脆化する）。

脆性遷移温度；軟らかさを失って脆化する温度

圧力容器（鋼鉄）の
脆化温度（脆性遷移温度）は
運転期間が長くなると上昇

使い始め -16°C

1 年後 → 35°C

18 年後 → 56°C

34 年後 → 98°C

40年以上では、 100°C を超える

圧力容器（鋼鉄）の 硬化温度が**上昇する理由**

金属は不純物が加わると硬くなる

（例）鉄でできた棒は、鈍ら（なまくら）であっても、鍛冶屋さんが炭火の中で加熱し、鍛えて、炭素を適当量加えれば、切れ味の良い硬い刃物になる。

中性子（不純物）が吸収されると硬く、脆くなる

圧力容器の脆化温度が
上昇すると
どんな不都合が
生じるのでしょうか？

原子炉が**緊急事態**
(冷却材喪失) に陥ったとき、

→ **冷却水で急冷**

脆化温度 (脆性遷移温度) 以下に
急冷されると、

ガラスを急冷したときのように、

→ **圧力容器が破損 (割れる)**

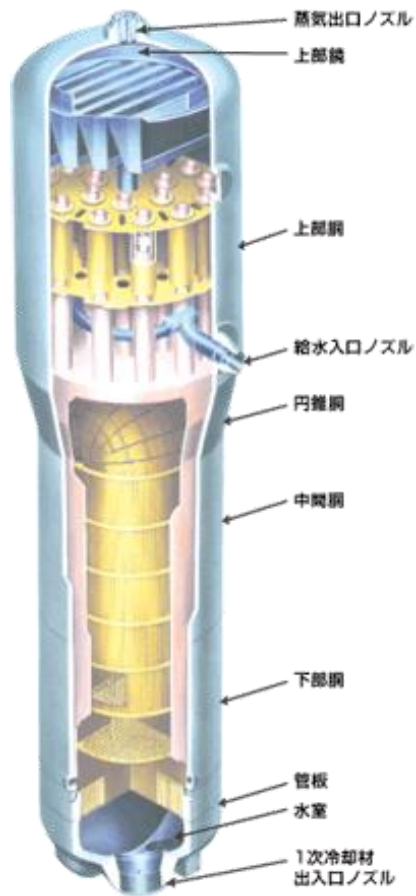
→ **福島事故以上の事態**を招く可能性

老朽化に伴う 金属疲労、腐食、減肉

減肉（げんにく）

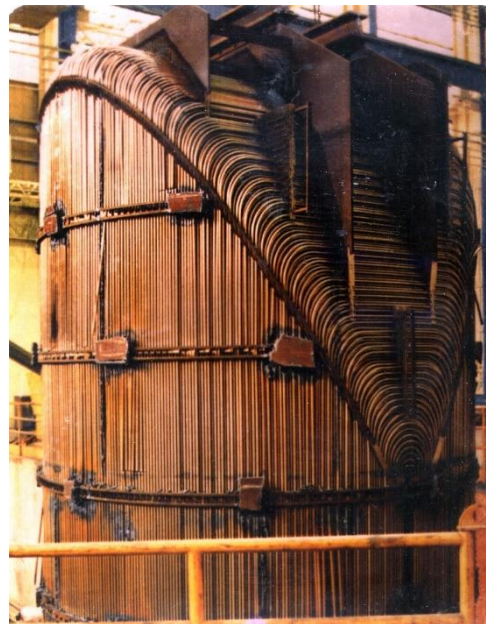
配管などの管の厚みが減少すること

配管の金属疲労、腐食、減肉 蒸気発生器伝熱管など



蒸気発生器

三菱重工HPより



蒸気発生器の例

胴部外形：上部約 4.5 m、

下部約 3.4 m、全高：約 21 m、

伝熱管：約 3400 本、

外経約 22.2 mm、

肉厚約 1.3 mm

**伝熱管が完全に破断すれば、
原子炉水が噴出し、
原子炉が空焚きになる可能性**

**(実際、1991年に美浜原発2号機で伝熱管破断が起き、
緊急炉心冷却装置が作動。)**

配管破断の要因の一つ

金属疲労

金属材料に繰返し「力」を加えたとき、はじめ小さな傷が生じ、やがて大きな破壊に至る現象

金属疲労の例

1985年8月の日航ジャンボ機墜落（御巣鷹の尾根）事故
後部圧力隔壁の金属疲労が原因

1991年2月に、美浜原発2号機で蒸気発生器伝熱細管が
ギロチン破断（刃物で断ち切ったような破断）して
一次冷却水が2次側に漏洩した事故
高サイクル振動による金属疲労が原因

この事故は、メルトダウンにつながりかねない深刻な
もので、国内の原発で緊急炉心冷却装置（ECCS）が
動作する最初の事例となった。

金属疲労による損傷

ポンプやタービンによる機械的振動
や配管を水や水蒸気が流れるときに
生じる振動が長期にわたって加わっ
たときにも生じる。

金属腐食

金属が接触している他種の金属、
液体、気体と反応して溶けたり、
腐食生成物（いわゆるさび）を
生成する現象

金属腐食

老朽原発でしばしば問題となるのは、局所的な金属腐食・「局所腐食」の一つ「応力腐食割れ」

応力腐食割れ

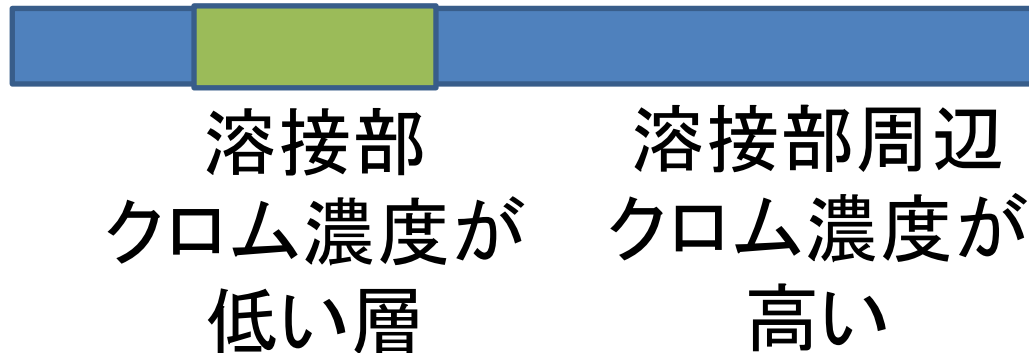
材料が腐食環境にあるとき、材料に引張応力(材料が引っ張られたとき、材料内部に生じる抵抗力)が加わって発生する亀裂(割れ)。



応力腐食割れの例

1960年代末から1980年代初頭、沸騰水型原発で、炭素含有率が比較的高いステンレス配管の溶接部近傍（数mm以内）で応力腐食割れが多発した。

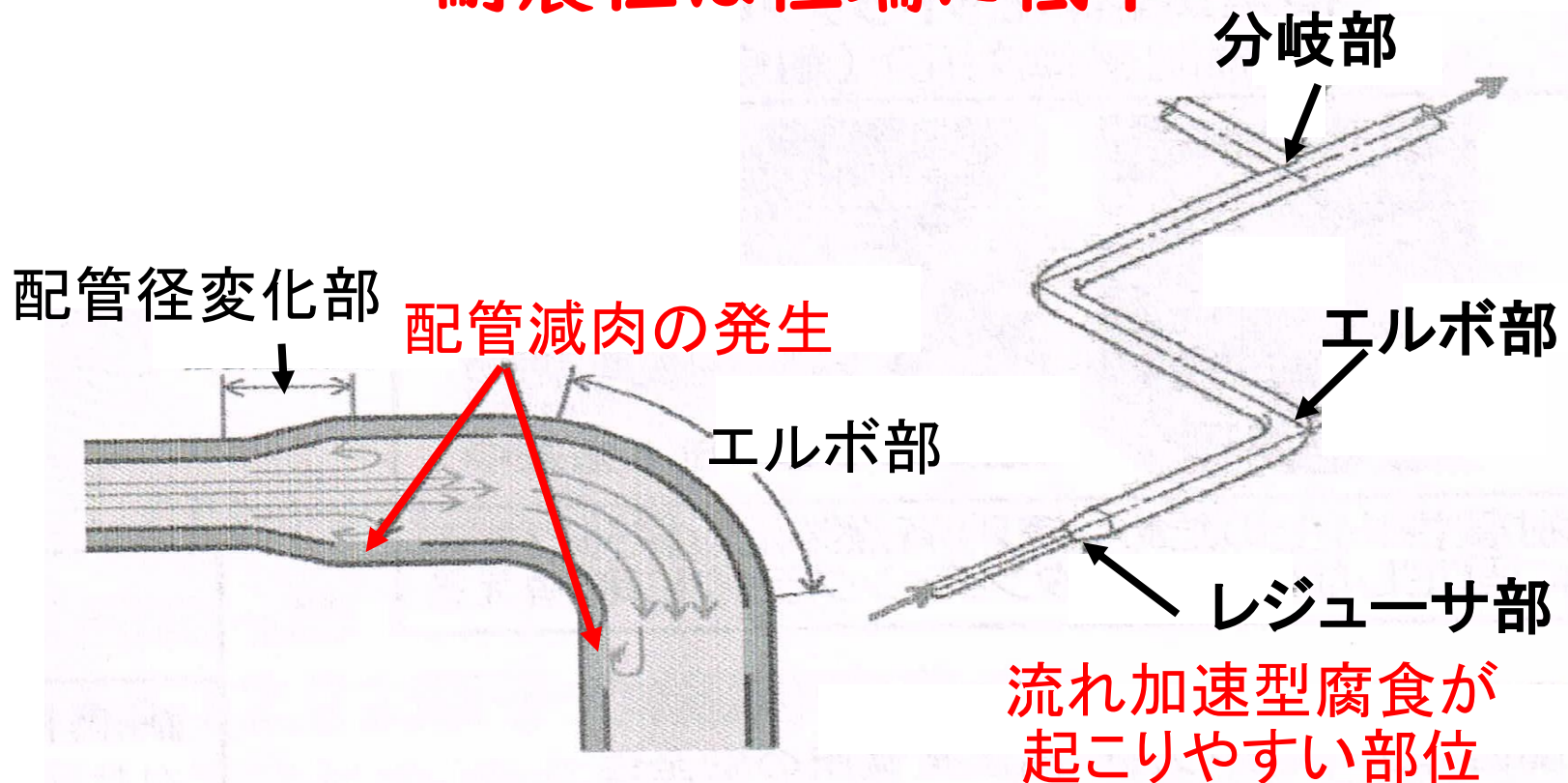
ステンレスは、鉄に10～20%のクロムを混ぜて、さびにくくした合金であるが、溶接時に600℃～800℃に加熱された部分ではクロム炭化物が生成し、クロム濃度が周囲より低くなる層が生じる。この部分が酸素を含んだ炉水中にあるとき、材料に引っ張る力が加わると、応力腐食割れが発生、進展する。



エロージョン・コロージョン

局所的沸騰(キャビテーション)や液滴、固体粒子の衝突によって材料表面が徐々に脱離(エロージョン)することによる腐食(コロージョン)・減肉

耐震性は極端に低下



エロージョン・コロージョンの例

2004年8月、運転開始後から28年の美浜原発3号機の二次冷却系の復水系配管が突然破裂し、高温高压の二次系冷却水が大量に漏れ出して、高温の蒸気となって周囲に広がった事故。

この配管は、直径55 cm、肉厚10 mmの炭素鋼(2%以下の炭素を含む鉄合金)製で、破裂箇所の上流側には圧力差から流量を計測するためのオリフィスと呼ばれる狭窄部が設けられている。

オリフィスで生じた渦流によるキャビテーションは、徐々に配管内面を削り、事故当時には、配管は肉厚1.4 mmにまで減肉していた。この状況で、配管は、150℃、10気圧という運転圧力と振動に耐えられなかった。

この事故では5名が死亡、6名が重軽傷。国内初の運転中の原発での死亡事故。

原発再稼働時に 頻発するトラブル

運転開始後 40 年経たなくとも
老朽化が進んでいる

原発再稼働時に 頻発するトラブル（I）

2015年8月に再稼働した川内原発1号機：
再稼働10日後に復水器冷却管破損

2016年2月、再稼働準備中の高浜原発4号機：
1次冷却系・脱塩塔周辺で水漏れ；発電機
と送電設備を接続した途端に警報が鳴り響き、
原子炉が緊急停止

原発再稼働時に 頻発するトラブル (2)

2016年7月、再稼働準備中の伊方原発3号機：
1次冷却水系ポンプで水漏れ

2018年3月に再稼働した玄海原発3号機：
再稼働1週間後に、脱気装置からの蒸気漏れ
(配管に直径1 cmの穴)

原発再稼働時に 頻発するトラブル (3)

2018年8月末に再々稼働した高浜原発4号機：

8月19日に事故時に原子炉に冷却水を補給するポンプの油漏れ；20日には温度計差込部から噴出した放射性物質を含む蒸気が原子炉上蓋から放出される深刻なトラブル

原発再稼働時に 頻発するトラブル（4）

2019年10月、再々稼働準備中の高浜原発4号機：

蒸気発生器（3台設置）の伝熱管5本の外側が削れて管厚が40～60%減少していることを発見。関電と規制委は、伝熱管の減肉や損傷は、混入した異物が配管を削ったためとした。

（蒸気発生器の1台からはステンレスの小片が見つかったものの、他の2台の蒸気発生器では、異物は特定できていない。）

2020年2月、再々稼働準備中の高浜原発3号機：

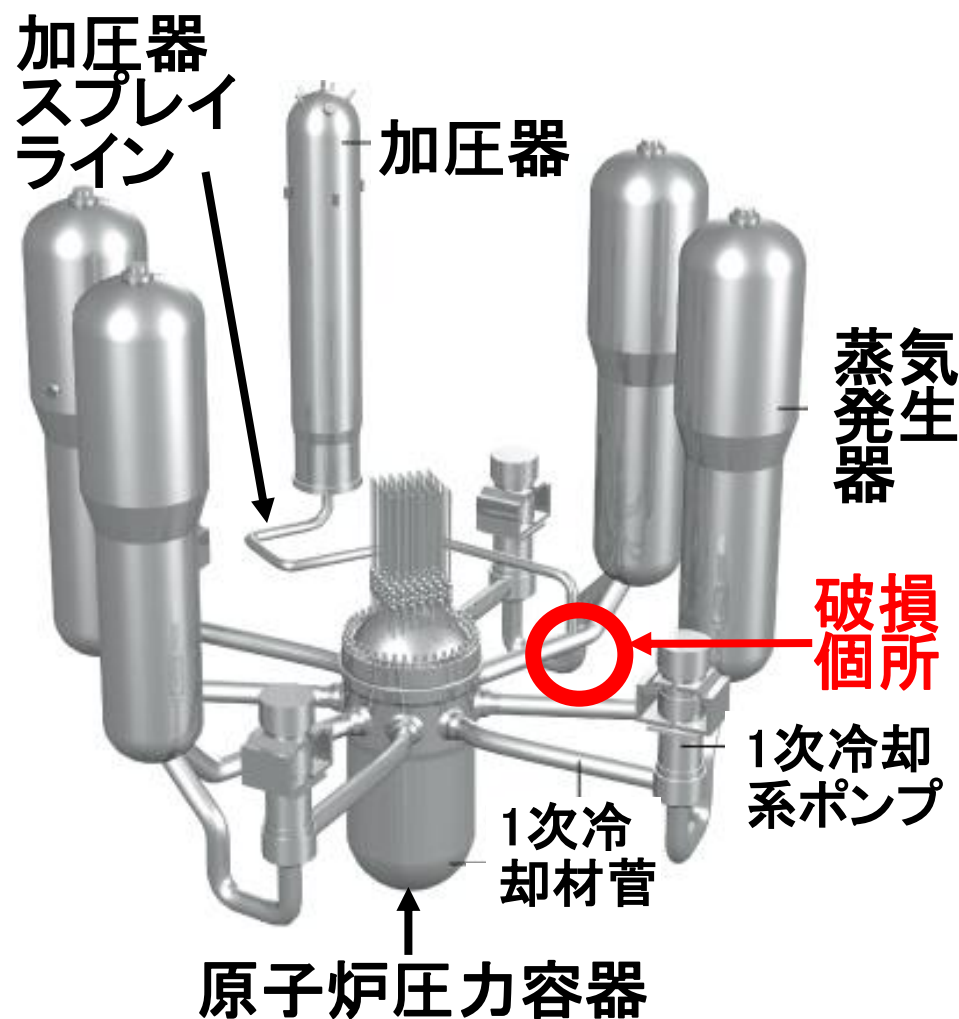
蒸気発生器伝熱管の減肉・損傷を発見。関電は、異物の混入のためとした。

原発再稼働時に 頻発するトラブル (5)

2020年9月、再々稼働準備中の大飯原発3号機

直径11 cm の1次系配
管(加圧器スプレーラ
イン管)の損傷は伝熱
管損傷より格段に深刻。

加圧器スプレーライン
管は、伝熱管に比べて
格段に大きいため、伝
熱管に比べて破断しや
すく、破断すれば、伝
熱管破断時に比べて、
格段に深刻な冷却材
喪失を引き起こす。



原発再稼働時に 頻発するトラブル（6）

2020年10月、再々稼働準備中の高浜原発4号機：

蒸気発生器の伝熱管の外側が削れて管厚が減肉・損傷していることを発見。関電は、伝熱管外側に自然発生した鉄さびの塊（スケール）がはがれて、伝熱管を削ったためとした。



原発再稼働時に、頻発するトラブル：
原発老朽化の深刻さ、
保守点検のいい加減さ、
規制委審査の無責任さを露呈

トラブルの中でも高温・高圧水
(157気圧、320℃) が流れている
1次系、蒸気発生器伝熱管の損傷は
とくに深刻

伝熱管が完全に破断すれば、
原子炉水が噴出し、
原子炉が空焚きになる可能性

損傷した伝熱管は多数に上る

例えば、高浜原発3号機では、2018年9月段階で約1万本の伝熱管の3.6%にあたる364本が減肉、腐食、応力腐食割れによる摩耗によって使用不能になり、栓がされている。

蒸気発生器は

「加圧水型原発のアキレス腱」

取り替えたばかりの蒸気発生器も破損

米国のサン・フレスノ原発2、3号機では、2010年、2011年に蒸気発生器を三菱重工業製の新品に取り替えたが、2012年1月、3号機で放射性物質を含んだ蒸気が漏出し、運転を停止。両機ともに3000本以上の蒸気発生器伝熱管が早期摩耗。2基は2013年6月に廃炉。

蒸気発生器は25年もの老朽

高浜1、2号機、美浜3号機の
蒸気発生器が取り替えられたのは、それ
ぞれ1996年、1994年、1996年であり、
約25年も経過しているにも拘わらず、
規制委はこれらの原発の運転を認可。

昨年来の高浜原発伝熱管の減肉は、 深刻な問題を提起

人がうっかりミスで持ち込んだ「金属片」や自然発生した鉄さびの塊などが、冷却水の流れに乗って蒸気発生器内を巡って、配管を損傷させている。

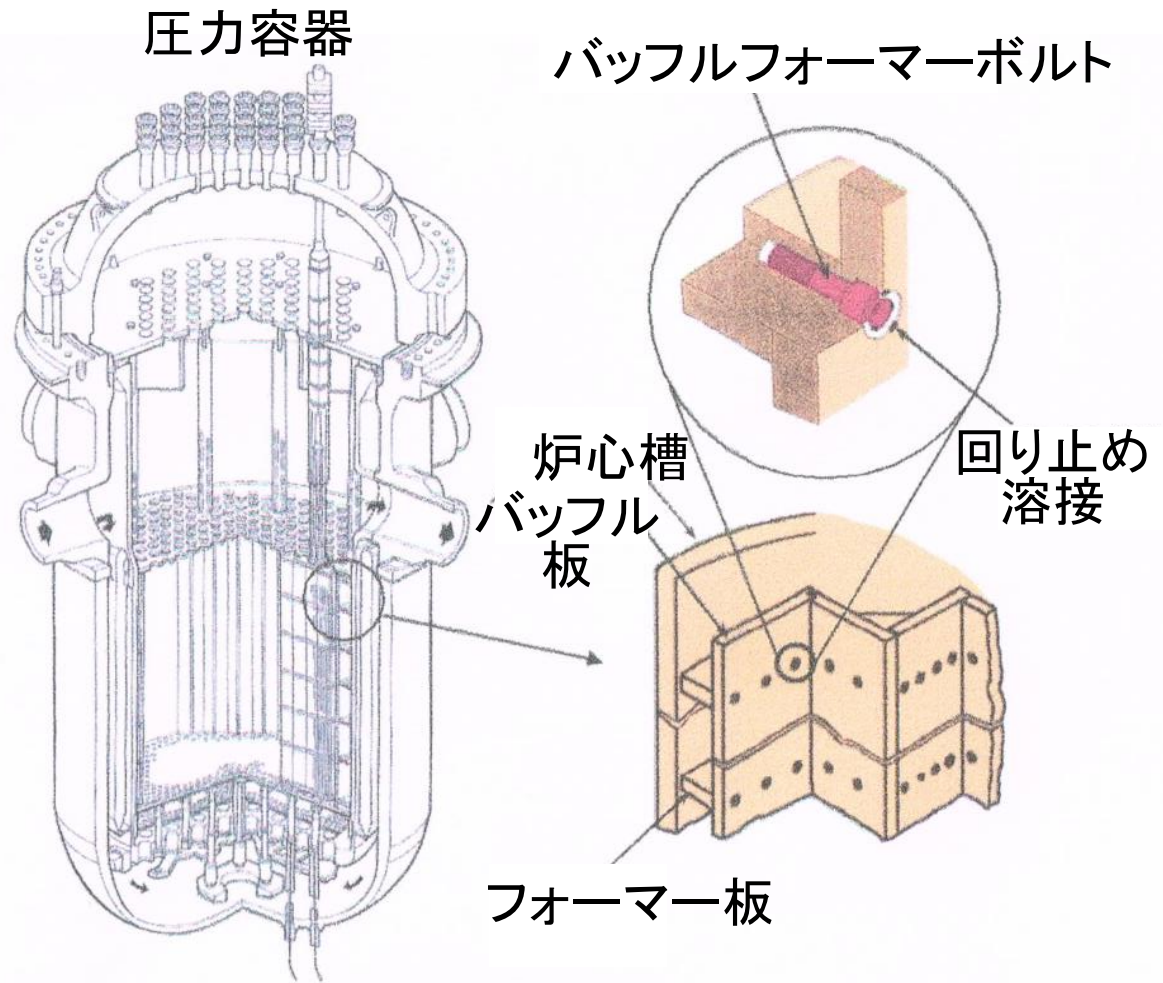
これらの異物は、原発老朽化とともに増える。

減肉の原因の一つは、規制委の審査では想定されていない「混入した異物による損傷」

「異物の混入」は、防ぎきれない人為ミスによっても起こるが、炉内での腐食や破損によっても起こる。

例えば、規制委の審査では、炉内で冷却水流路を維持
2種の板を連結するバッフルフォーマボルトの応力
腐食割れによる損傷数は60年運転時点で全体の20%以
下であるから安全を維持できるとしているが、破損ボ
ルトが異物として炉心や配管を損傷する可能性もある。

バッフルフォーマボルト
はバッフル板とフォーマ
板を締結することでバッ
フル構造を形成し、原子
炉容器下部から上昇して
きた冷却水の大部分を燃
料領域に配分するため、
主に冷却水流路の維持
及び流量適正配分の機
能に関する。
バッフル板 baffle plate
(じゃま板)



腐食、減肉、損傷の頻発する
蒸気発生器を持つ加圧水型原発は、
重大事故を起しかねない。

運転開始後45年、44年、43年超え
の老朽原発・

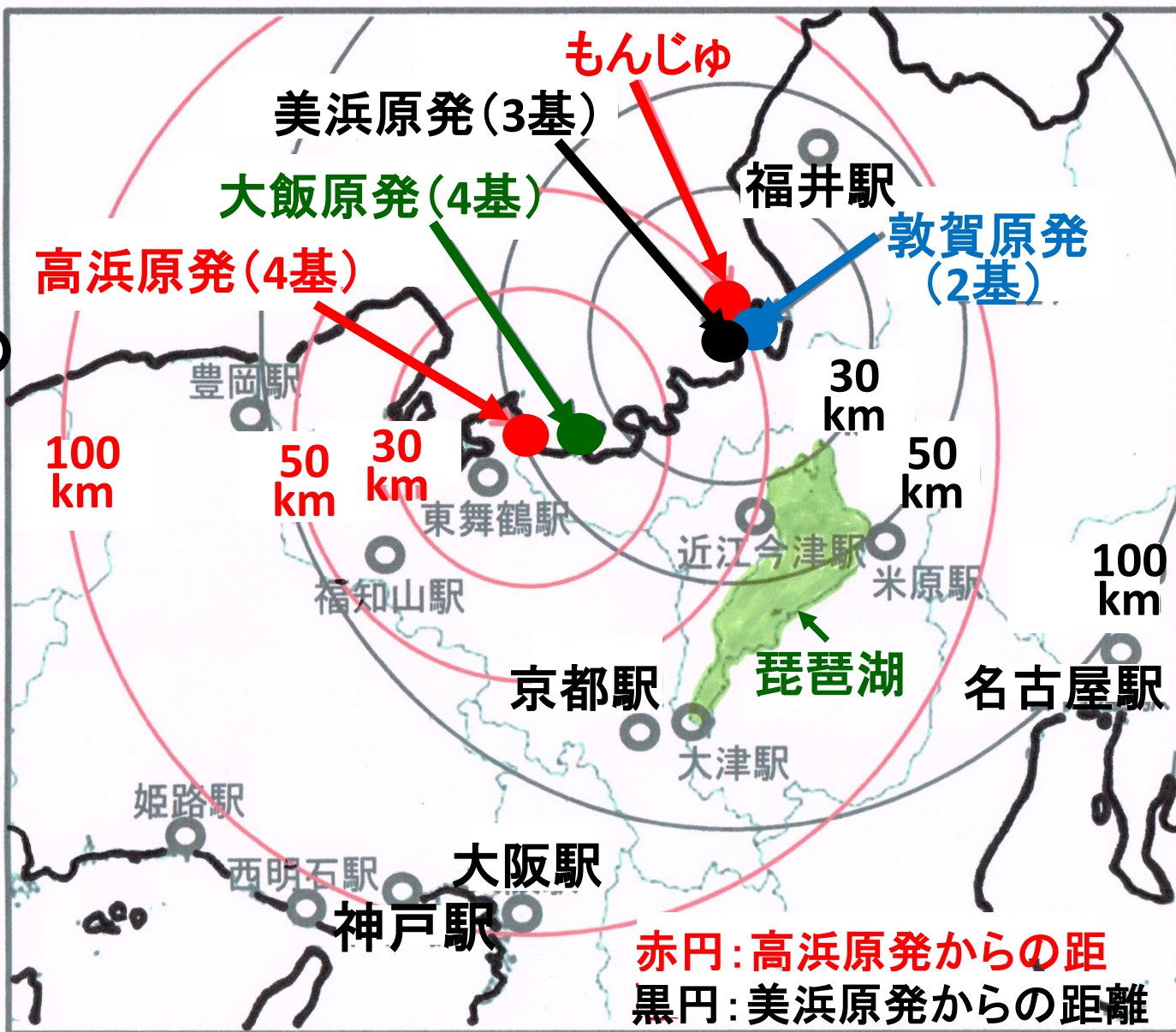
高浜1、2号機、美浜3号機の
運転などもってのほか。

取り分け危険な 若狭の原発

老朽原発・高浜1、2号機、美浜3号機の
再稼働を企む

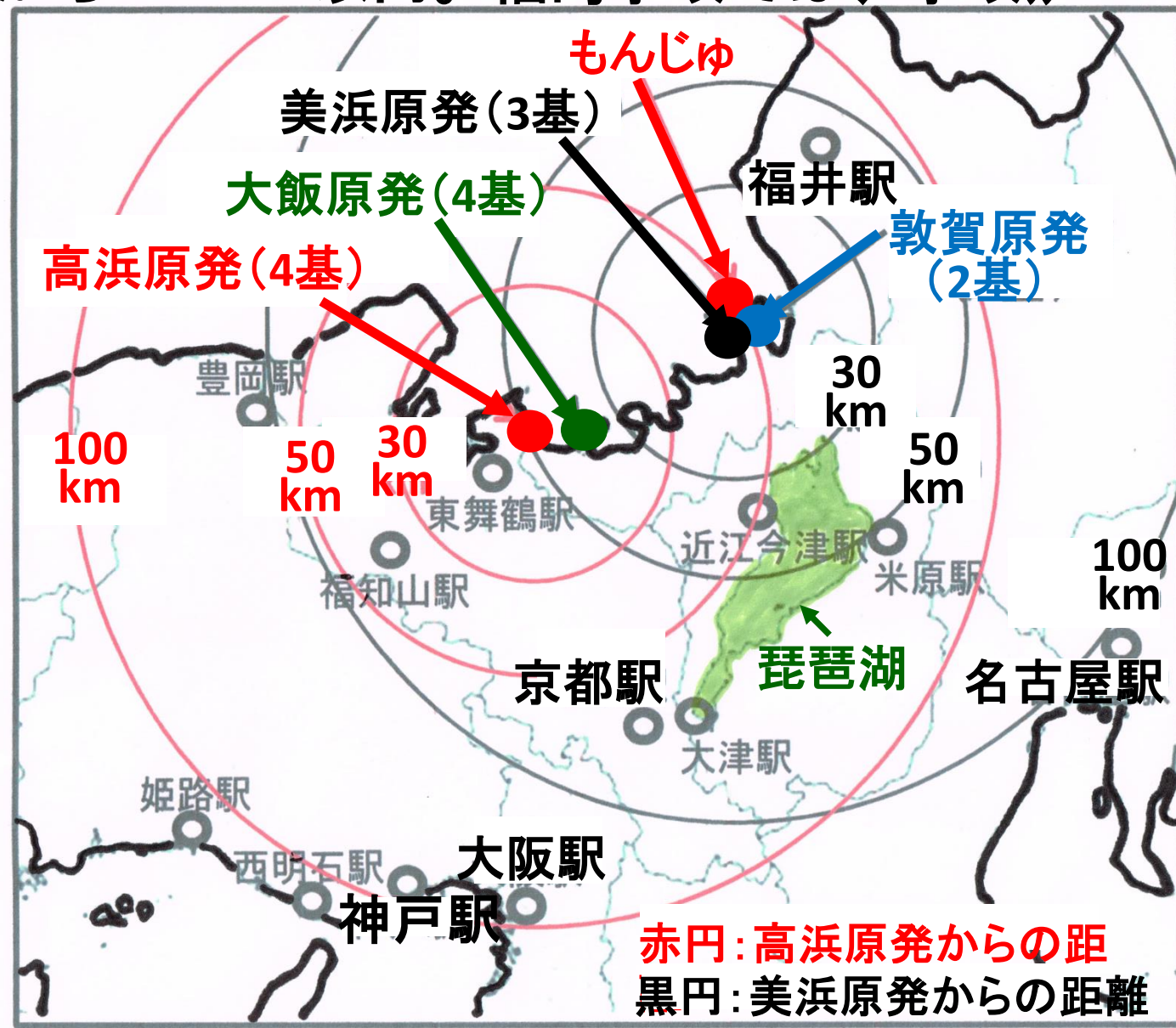
【1】 原発集中；13基の商用原発（5基廃炉）と 「もんじゅ」（廃炉）、「ふげん」（廃炉）

40 km 圏内に
原発15基。
1か所に2~4基
の原発が隣り
合わせ。1基の
事故で他の原
発にも近寄れ
なくなる。
地域の原発依
存度が高く、若
狭のほぼすべ
ての自治体が
原発推進を掲
げている。



約250万人が住む京都府、140万人が住む滋賀県のほぼ全域、500万人以上が住む大阪府、兵庫県のかんりの部分が若狭のが若狭の原発から100 km 以内。福島事故では、事故炉から約50 km離れた飯館村が全村避難であったことを考え合わせれば、若狭の原発で重大事故が起きたとき、500万人以上が避難対象となりかねない。避難は不可能。

関西1450万人の水源・琵琶湖は30～80 km圏内。



**【3】 MOX(ウラン・プルトニウム混合酸化物)を
燃料(プルトニウム: 4~9%)とする
プルサーマル運転
高浜3、4号機(大飯原発も計画中)**

**既存原発のプルサーマル運転は、元々ウラン燃料
を前提とした軽水炉のウラン燃料の一部をMOX燃料
で置き換えて行うので、技術的な課題が山積
(全MOX炉も制御困難)**

プルサーマル運転 重大事故の確率が高い

- 燃料被覆管が破損しやすい。
酸素と結合し難い白金族元素が生成しやすく、余剰酸素が被覆管を腐食する」。また、核分裂生成物ガスとヘリウムの放出が多く、燃料棒内の圧力が高くなる。
- ウラン燃料と比べて燃焼中に核燃料の高次化（より重い元素の生成）が進みやすく、原子炉の運転や停止を行う制御棒やホウ酸の効きが低下。
（中性子を吸収しやすいアメリカシウムが生成。）
- 核燃料の不均質化（プルトニウムスポットの生成）を招きやすい。
- 中性子束（密度）が大きく、高出力。

核燃料の高次化

原子番号	元素	元素記号	元素名の由来
92	ウラン	U	天王星
93	ネプツニウム	Np	海王星
94	プルトニウム	Pu	冥(地獄)王星
95	アメリシウム	Am	アメリカ
96	キュリウム	Cm	キュリー
97	バークリウム	Bk	バークレー

高次化



使用済みMOX燃料の発熱量は、 ウラン燃料に比べて下がり難い

- ・ 発熱量が下がり難い⇒長期にわたってプール内で水冷保管しなければ、空冷保管が可能な状態にならない。
(使用済みウラン燃料の4倍以上：使用済み燃料保管プールは脆弱で、冷却水を喪失しやすい。)
- ・ 取り出し後50年～300年の使用済みMOX燃料の発熱量は、
使用済みウラン燃料の発熱量の3～5倍。
- ・ 使用済みMOX燃料の発熱量を、50年後の使用済みウラン燃料の発熱量レベルにするには300年以上を要する。

MOX燃料の発熱量が大きい理由；
アメリシウムなどの生成量が多く、
崩壊熱がウラン燃料の10倍程度
(核分裂性生成物の崩壊熱は同程度)

自然冷却可能(乾式貯蔵
可能)な崩壊熱；2 kW/t
(成人の発熱量程度)

【4】 PWR(加圧水型)が BWR(沸騰水型)より 安全とは言えない

**福島原発事故の32年前(1979年)に炉心溶融事故を
起こしたスリーマイル島原発(TMI原発)はPWR。**

- PWR(高浜原発)の炉内圧力は約160気圧で、BWR(福島原発)の約70気圧の倍以上。配管が破断したとき、噴出する冷却水の勢いは格段に大きい。
- 出力密度がBWRの約2倍であり、それだけPWRの方が炉心溶融しやすい。
- 事故発生から炉心溶融まで、PWRでは1時間程度(TMI事故の例)、BWRでは5～12時間(福島事故の例)。
- PWRの方が中性子照射量が多いため、材料の照射劣化が進行しやすく、原子炉容器の破裂事故(最悪の事故)を招きやすい。原発老朽化は大問題。
- PWRでは、格納容器内でも水素爆発が起こる。BWRは窒素を充填しているため、格納容器内では水素爆発は起こらない(福島事故は全て格納容器外)。

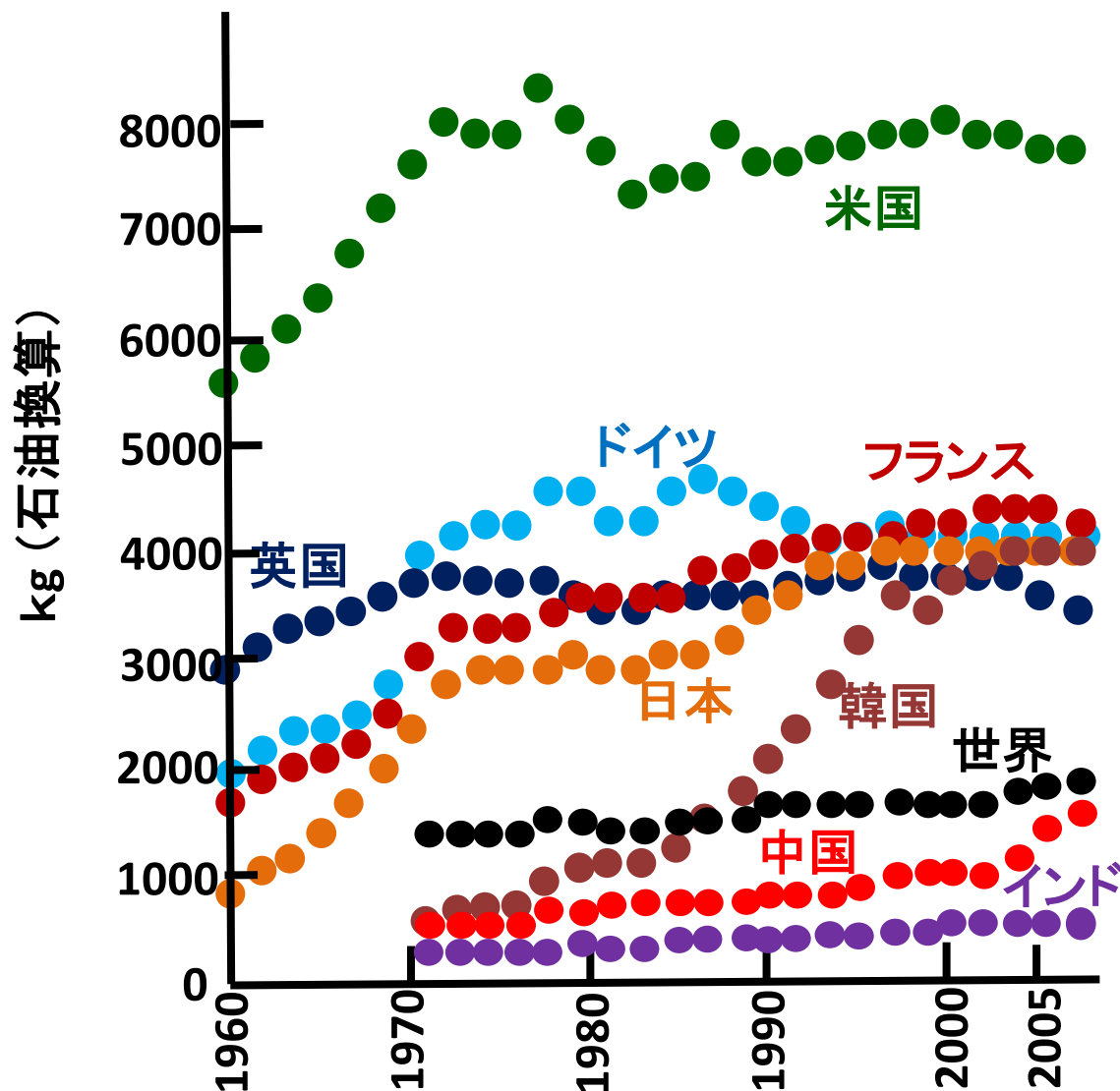
原発は無くても大丈夫か？
原発で作らなければならない
いほど多量のエネルギーは
本当に必要か？

原発は無くても大丈夫か？ 多量エネルギーは本当に必要か？

1日あたりのエネルギー使用量の変遷

	使用量 (kcal)
数 10 万年前 (火を使わない)	2000
10 ～ 1 万年前 (狩猟、火使用)	5000
7000年前 (農業、家畜)	12000
15 C [木炭→石炭(主として暖房)]	26000
19 C 中葉 (産業革命後：英国)	77000
現在 (日本)	160000
(米国)	280000

人口一人当たりのエネルギー消費量の推移



消費量は1次エネルギー(自然界に存在し、人間が変換・加工して利用するエネルギー源)供給量

資料: IEA、世銀

エネルギー使用量（要求量）を
減らすことは可能か

エネルギーの拡大より
今の $1/10$ のエネルギーで働く装置
の開発を

トランジスターの発見（1948 年）

真空管の何万分の1以下のエネルギーで、
真空管以上の機能を実現

発光ダイオード（LED； 1962 年）

蛍光灯の10分の1のエネルギーで
蛍光灯と同じ明るさを得る

「欲を少なくし、足るを知り」、質素で豊かな生活を

原発全廃は難しくない

少し待てばエネルギー縮小時代になる

(人口増加の停止、省エネ機器の開発、水力・火力・その他の発電法の効率化、各種の再生可能エネルギーによる発電法の開発と高効率化、蓄電法の改良・開発、など)

自然エネルギー、化石燃料は
十分存在するので、待てる

(太陽光、風力、波動、地熱、バイオマス、石油：200年、石炭：1,000年以上、天然ガス、メタンハイドレート、オイルシェールなど)

エネルギー使用の削減、節電が肝要

原発全廃を目指して 何をなすべきか

脱原発、反原発は圧倒的な民意。
老朽原発運転を望む声などほとんどない。

⇒ 反原発運動が高揚すれば、
原発のない社会は実現できる。

原発を止める方法？

- ①政府（規制委を含む）に原発を断念させる。
- ②立地自治体に原発稼働拒否を表明させる。
- ③裁判で原発運転を差し止める。
- ④電力会社に原発を断念させる。



いずれを実現するにも、創意工夫を凝らして、市民運動、労働運動を高揚させ、脱原発・反原発の民意を顕在化し、社会通念にする以外に道はない。



隠れた「原発は危険」、「エネルギーへの過剰依存はダメ」、
「脱原発、反原発」の声を日常茶飯の声に！

近所で、地域で、職場で、
勇気をもって「原発反対」を表明しよう！

おわりに

次のような状況は、脱原発・反原発は、近い将来、必ず実現できることを確信させます。

- ① 今、圧倒的な民意と大衆運動のために、安全対策費がとくに膨大な老朽原発は廃炉に追いこまれ、福島原発事故当時、国内に54基あった稼働可能な商用原発は、33基にまで減少しています。
- ② 安全対策費は世界的にも高騰し、安倍政権が推進してきた海外での原発建設は、全てが頓挫しています。
安全対策費は、ますます高騰します。火山灰の降下量の見積り、基準地震動の評価、津波の高さの評価、警報のない津波に対する対策など、何れをとっても、より厳しい方向に見直さなければならなくなっているからです。
- ③ 規制委は、原発の「特重施設」いわゆるテロ対策施設が期限までに完成しなければ、原発は運転中であっても、停止させると決定しています。

- ④ 1昨年9月、関電が支払った原発関連工事費が、多額の金品として関電幹部に還流されたことが暴露され、昨年3月には、電気料金値上げ時にカットした役員報酬や役員が追加納税した税金を、退任後、関電が補填していたことが公表され、多くの怒りを買っています。
「原発マネーの垂れ流しの中でしか維持できない原発」の全廃を求める声はさらに拡大しています。
- ⑤ 使用済み核燃料は、中間貯蔵すら引き受けるところがないことは、ますます明らかになっています。
- ⑥ 原発を進める電力会社からの顧客離れが進んでいます。

脱原発・反原発の運動にとって、
大きな追い風が吹き、山は動き始めています。

老朽原発再稼働をめぐる動きは 急を告げています

関電と政府は、運転開始後40年をはるかに超えた老朽原発・高浜1、2号機、美浜3号機の再稼働を画策し、全国の原発の60年運転を先導しようとしています。

関電は去る9月、美浜3号機、高浜1号機の安全対策工事が完了したと発表し、これらの原発の近々の稼働を狙っています。また、高浜町議会、美浜町議会は、去る11月、12月に、高浜原発1号機、美浜3号機の再稼働に同意しています。また、先月、高浜町長、美浜町長も同意を表明しました。

一方、もう一つの原発立地自治体である福井県の杉本知事は、「運転に同意するには、関電が使用済み核燃料の中間貯蔵施設の県外候補地を示すことが前提」としていましたが、2月12日、経産大臣、資源エネルギー庁長官、関電社長との4者会談の後、それまでの発言を一転させ、16日の県議会初日で、「再稼働に向けた議論」の開始を要請しています。

なお、関電は、2月10日、戸嶋美浜町長に対して「競争入札を経ない発注(特命受注)などにより、地元企業の活用に努める」として、町長の美浜3号機再稼働への同意を取り付けました。

「関電の経営体質は、原発マネー不祥事後に行った「人事刷新」によっても全く変わっていない」ことを証明しています。関電幹部には、企業倫理や法令を遵守する姿勢がないことは明らかです。約束を平気で蹂躪し、金品まみれでなければ推進できない原発の運転を許してはなりません。

なお、政府は、「例外中の例外」であるはずの若狭の老朽原発を再稼働させ、これを前例として、全国の原発の60年運転を推し進めようとしていると考えられます。

一方、原発の40年越え運転と新設を阻止できれば、最悪でも2033年には若狭から、2049年には全国から稼働する原発が無くなります。

「老朽原発うごかすな！」行動は、今が正念場です！

**老朽原発廃炉を突破口に、
原発全廃を勝ち取りましょう！**

ご清聴ありがとうございました。